

1978 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆論文奨励賞「道路網と交差点」

腰塚 武志(筑波大学社会工学系助教授)

〈選考理由〉

交差点は交通処理上の隘路であり、かつ各地域からのアクセシビリティをもたらす、都市の原点である「市」を発生する特異性を有する。

これらの性格を考慮して、交差点を考慮した道路網を形成させるには普遍性のあふれた数学的処理を行う必要がある。この普遍性ある数学的処理はなかなか至難であり、交差点の数、その質、そして対応する道路ネットワークとの相関性を適確に検討するための努力は従来も行われては来た。

本論はこれらの普遍妥当性に挑戦し、曙光を見出しつつある提案を数学的に行っている。この提案は複雑多岐な都市形成の軸ともなる道路網計画に新しい角度から貢献すること多大と云えよう。

この提案がさらによりよい係数化をはかることにより、都市地域の土地利用、容積計画との関係、交通管理計画との即応、総合的環境と直結する地区詳細計画の構成因子等の明確化を促進させうることは期待できるものと考えられる。

よって、そのユニーク性、云して将来への期待をこめて、日本都市計画学会論文奨励賞に値するものとする。

◆論文奨励賞「既成住宅市街地の再整備に関する一連の研究」

日端 康雄(東京大学都市工学科助手)

〈選考理由〉

市街地の形成と変容過程の実情をふまえた計画規制のあり方の研究は、都市計画

の基礎的分野であり、市街地全体が激しく変貌をとげつつある今日においては、とくに重要なテーマであるといえよう。

日端君のここ数年間の一連の研究（都心周辺市街地の環境変化構造について＝51年度学術研究発表会、都市計画規制等との関連よりみた住宅市街地の環境条件の変動に開する考察＝52年度学術研究発表会、既成住宅市街地の変容地区類型化の一方法について＝53年度学術研究発表会）は、この方向を指向したものである。研究そのものはまだ途上であり、今後に期待する部分も多いが、継続的研究が望まれる分野である。

同君の、イギリスの総合改善事業やドイツの地区詳細計画等に関する、市街地の形成と再整備にかかわる精力的な文献研究とあわせて、論文奨励賞に値するものと考ええる。

◆設計賞「酒田市大火復興計画－防災都市づくり－の推進」

金子 冬吉（日本国有鉄道本社施設局踏切課長）

本田 豊（山形県企業局参事）

大沼 昭（酒田市建設部長）

〈選考理由〉

山形県酒田市は、その中心市街地が昭和51年10月29日から30日にかけて、強風雨下に大火にみまわれ、焼失面積1,774棟、損害額405億円の大きな被害を受けた。

市当局は、この機会に防災都市づくり、市街地の近代化を積極的に打ち出し、国及び県の援助を受けて、罹災直後にただちに特色のある火災復興土地区画整理、市街地再開発等の都市計画を立案し、事業決定を行ない、現在ほぼ6割方の近代的な復興をみている。

計画内容をみると、土地区画整理においては、商店街以外の住宅地においても、モールの設置、多数公園の設置など、歩行者優先。通過交通排除、縁空間など近代的手法を積極的にとり入れている。

市街地開発事業は、その性格上数街区で成立したのみであるが、商店街では相当共同不燃化が進行、住民協力のもとに環境のよい市民広場的な商店街を形成しつつある。

以上のように復興の困難の中で、防災都市づくりを住民に対して積極的に啓蒙し、その趣旨を活かした都市計画を精力的に推進し、短期間のうちにここまで復興させたことは、設計賞受賞に値いする。